

第2章

家庭生活・地域活動について

1. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるか

問 3 家庭生活において、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方があります。これについて、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

▶「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に賛成の割合は 23.1%、反対の割合は 60.2%

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「賛成」及び「どちらかと言えば賛成」の合計は 23.1%、「反対」及び「どちらかと言えば反対」の合計は 60.2%であり、反対が賛成を 37.1 ポイント上回っている。長崎県調査（R1年）と比較すると、「どちらかと言えば賛成」の割合が 15.1 ポイント減少、「反対」の割合は 9.9 ポイント増加し、賛成と反対の割合の差は大きく広がる結果となっている。

内閣府調査（R4年）の賛成の割合は 33.4%であり、全国と比較すると長崎県は賛成の割合が 10.3 ポイント低い。男女別にみると、賛成の割合は男性が 30.0%、女性が 18.6%となり、男性が女性より 11.4 ポイント高い。一方で、反対の割合は女性が 65.5%、男性が 52.6%となり、女性が男性より 12.9 ポイント高い結果となっている。

年代別にみると、どの年代も反対の割合が賛成の割合より高く、70 歳以上を除くすべての年代で 6 割を超えている。70 歳以上では反対は 44.6%、賛成が 36.5%と、他の年代と比較して賛成の割合が最も高い。

図 2 - 1 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるか

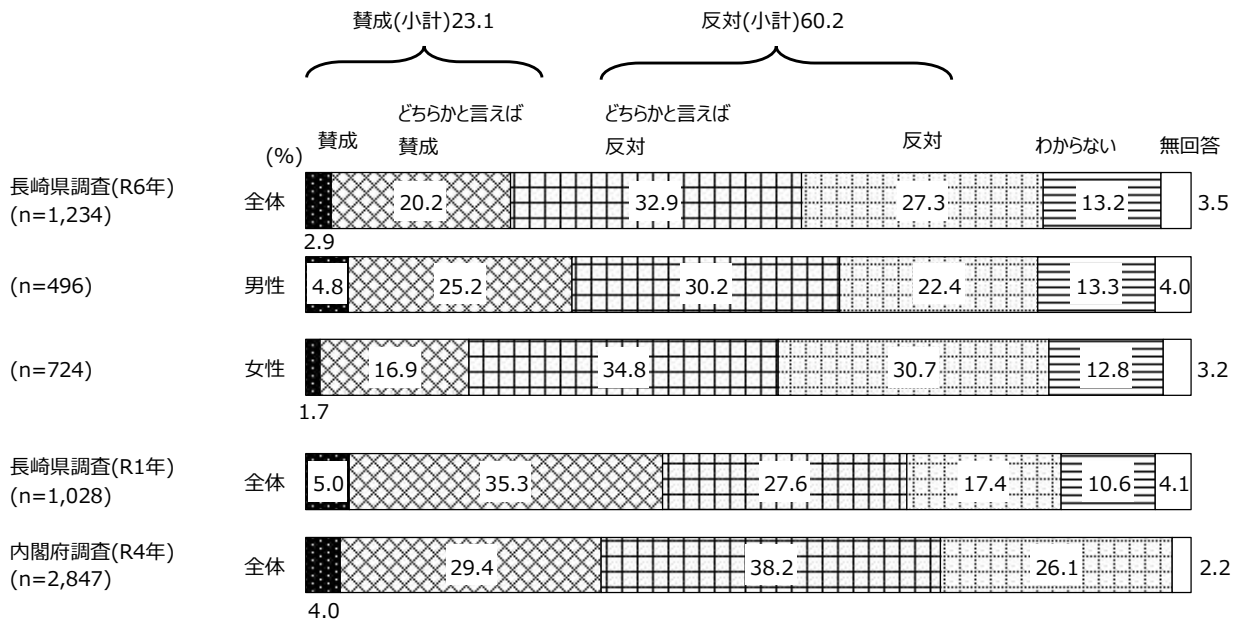


表 2 - 1 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるか

標本数		賛成	どちらかと言えば 賛成	どちらかと言えば 反対	反対	わからない	無回答
		%	%	%	%	%	%
全体 1,234 人		2.9	20.2	32.9	27.3	13.2	3.5
男女別	男性 496	4.8	25.2	30.2	22.4	13.3	4.0
	女性 724	1.7	16.9	34.8	30.7	12.8	3.2
年代別	10歳代 7	0.0	0.0	28.6	42.9	28.6	0.0
	20歳代 78	2.6	14.1	17.9	42.3	21.8	1.3
	30歳代 129	5.4	17.1	32.6	34.1	10.1	0.8
	40歳代 196	3.1	20.4	30.6	31.6	12.8	1.5
	50歳代 245	2.9	12.2	40.0	30.2	12.7	2.0
	60歳代 235	0.4	14.9	34.0	32.3	13.2	5.1
	70歳以上 334	3.9	32.6	31.4	13.2	12.6	6.3
未既婚別	結婚している 816	2.7	21.9	33.1	27.0	11.5	3.8
	離別・死別 163	3.1	20.9	33.1	28.2	9.8	4.9
	未婚 242	3.3	12.4	32.2	29.3	21.1	1.7

2. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考えに賛成する理由

問 3- 1 問 3 で「賛成」または「どちらかと言えば賛成」と答えた方へお尋ねします。
賛成と思うのはなぜですか。（○はいくつでも）

▶「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だから」の割合が最も高く 53.7%

家庭生活において、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成する理由について、「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だから」が 53.7%と最も高く、次いで「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などに良いから」が 50.9%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られるから」が 36.5%となっている。また、「自分の両親も役割分担をしていたから」は 15.8%、「日本の伝統的な家族の在り方だから」は 15.1%とともに大差ない割合となっている。

「自分の両親も役割分担をしていたから」の割合は、内閣府調査（R4年）では 8.3%、長崎県調査（R6年）では 15.8%となり、長崎県は全国と比較して 7.5 ポイント高い。一方で、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などに良いから」の割合は、内閣府調査（R4年）では 59.0%、長崎県調査（R6年）では 50.9%となり、長崎県は全国より 8.1 ポイント低い結果となっている。

男女別にみると、女性では「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だから」の割合が 64.9%と、他の項目と比較して最も高く、男性の 43.6%と比較すると女性は男性より 21.3 ポイント高い。男性では「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などに良いから」が 48.3%で他の項目と比較して最も高いが、女性 53.0%と比較すると 4.7 ポイント低い。

年代別にみると、「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だから」の割合は 60 歳代が 66.7%で最も高く、次いで 30 歳代が 65.5%となっている。また、70 歳以上は「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などに良いから」が 59.8%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られるから」が 41.8%、「日本の伝統的な家族の在り方だから」が 20.5%となり、他の年代と比較して最も高い割合となっている。一方で、「自分の両親も役割分担をしていたから」の割合は、20 歳代が 23.1%で最も高い割合となっている。

図 2 - 2 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考えに賛成する理由

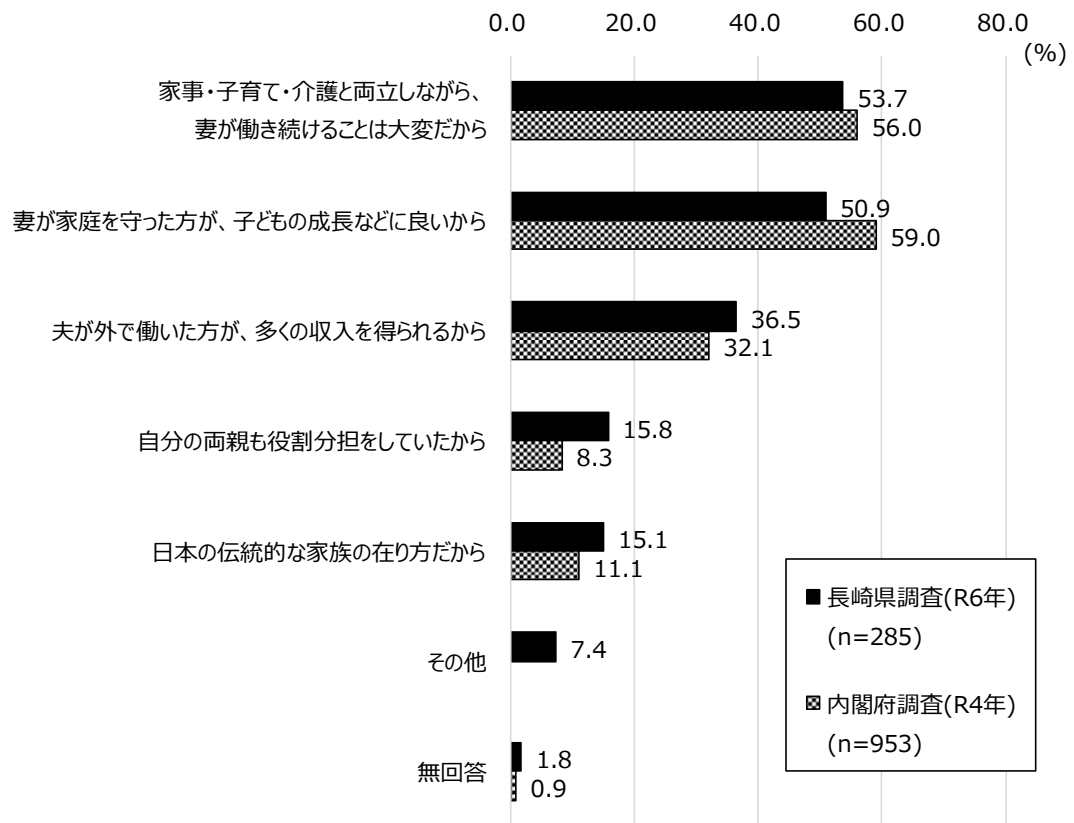


表2-2 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考えに賛成する理由

標本数		日本の伝統的な 家族の在り方だから	自分の両親も 役割分担をしていたから	夫が外で働いた方が、 多くの収入を得られるから	妻が家庭を守った方が、 子どもの成長などに良いから	家事・子育て・介護と両立し ながら、妻が働き続けること は大変だから	その他	無回答	
		人	%	%	%	%	%	%	
全体		285	15.1	15.8	36.5	50.9	53.7	7.4	1.8
男女別	男性	149	18.1	16.1	30.2	48.3	43.6	4.7	2.0
	女性	134	11.9	15.7	43.3	53.0	64.9	10.4	1.5
年代別	10歳代	0	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	13	0.0	23.1	30.8	30.8	53.8	7.7	0.0
	30歳代	29	10.3	0.0	34.5	44.8	65.5	20.7	0.0
	40歳代	46	8.7	17.4	28.3	47.8	43.5	10.9	2.2
	50歳代	37	16.2	18.9	40.5	35.1	54.1	8.1	0.0
	60歳代	36	13.9	16.7	27.8	50.0	66.7	2.8	2.8
	70歳以上	122	20.5	17.2	41.8	59.8	50.8	4.1	2.5
未既婚別	結婚している	201	14.4	14.9	39.3	51.7	53.2	8.0	1.5
	離別・死別	39	23.1	12.8	41.0	51.3	56.4	7.7	5.1
	未婚	38	7.9	23.7	18.4	44.7	57.9	5.3	0.0

3. 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考えに反対する理由

問 3-2 問 3 で「どちらかと言えば反対」または「反対」と答えた方へお尋ねします。
反対と思うのはなぜですか。(○はいくつでも)

▶「固定的な夫と妻の役割分担を押しつけるべきではないから」の割合が最も高く 59.4%

家庭生活において、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に反対する理由について、「固定的な夫と妻の役割分担を押しつけるべきではないから」の割合は 59.4%となり最も高い。次いで「夫も妻も家事・子育て・介護と両立しながら、働き続けることは可能だから」が 45.5%、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られるから」が 41.3%となっている。

「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いから」の割合は、内閣府調査（令和 1 年）の 40.0%と比較すると長崎県調査（R 6 年）は 26.1%で 13.9 ポイント下回っている。一方で、「夫も妻も家事・子育て・介護と両立しながら、働き続けることは可能だから」の割合は、長崎県調査（R 6 年）が 45.5%、内閣府調査（R 4 年）が 18.4%となり、全国と比較して長崎県が 27.1 ポイント上回っている。

男女別にみると、「男女平等に反するから」と「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いから」の割合は男性が女性より高く、その他の項目は女性が男性より高い。特に「固定的な夫と妻の役割分担を押しつけるべきではないから」の割合は女性が 65.4%、男性が 47.9%となり、女性は男性を 17.5 ポイント上回っており、これらの項目の中で最も割合の差が大きくなっている。

年代別にみると、「固定的な夫と妻の役割分担を押しつけるべきではないから」の割合はすべての年代で 5 割を超えている。「自分の両親も働いていたから」は、30 歳代が 27.9%と最も高く、次いで 40 歳代が 25.4%、20 歳代が 23.4%となっている。

図 2 - 3 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考えに反対する理由

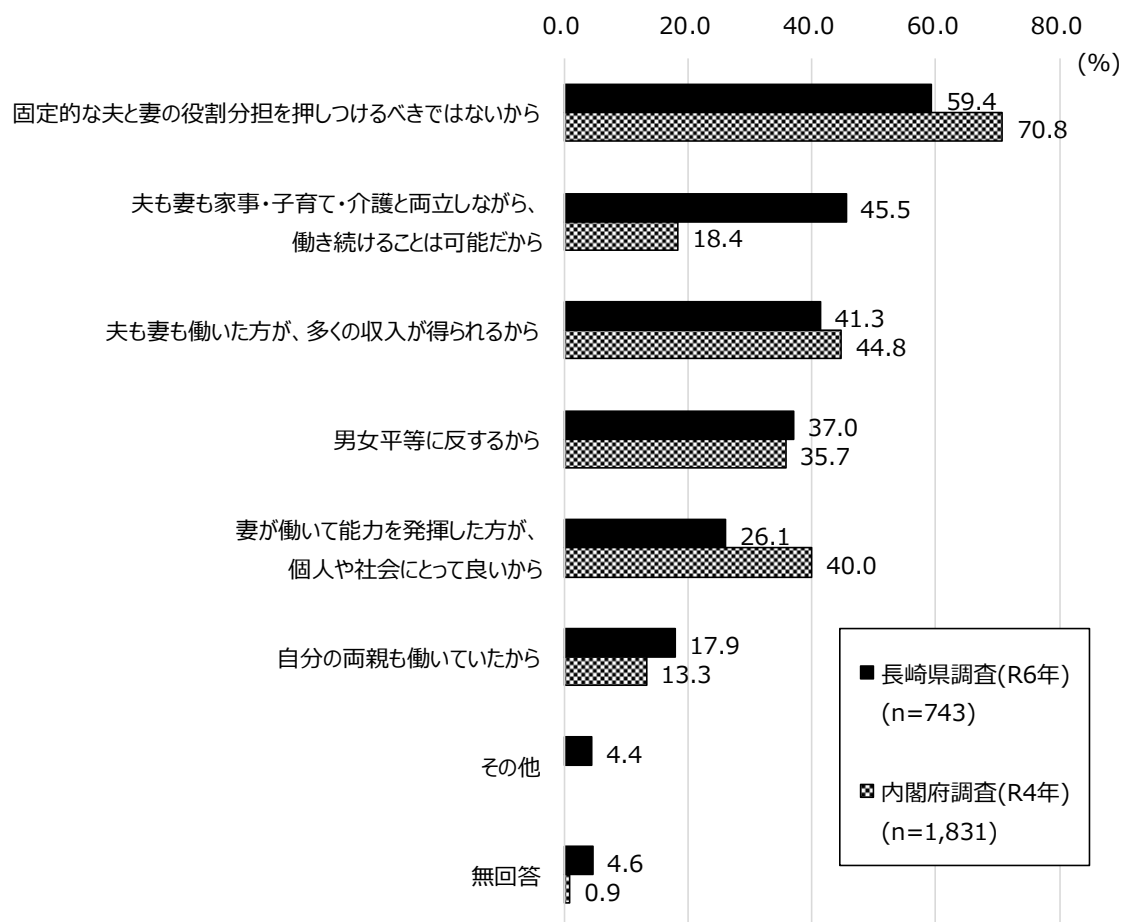


表2-3 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考えに反対する理由

標本数		男女平等に反するから	自分の両親も働いていたから	夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られるから	妻が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いから	夫も妻も家事・子育て・介護と両立しながら、働き続けることは可能だから	固定的な夫と妻の役割分担を押しつけるべきではないから	その他	無回答	
		人	%	%	%	%	%	%	%	
全体		743	37.0	17.9	41.3	26.1	45.5	59.4	4.4	4.6
男女別	男性	261	38.3	17.2	40.6	31.8	36.8	47.9	3.8	3.8
	女性	474	36.7	18.1	42.2	23.0	50.4	65.4	4.4	4.9
年代別	10歳代	5	60.0	20.0	20.0	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0
	20歳代	47	40.4	23.4	44.7	10.6	34.0	70.2	6.4	0.0
	30歳代	86	31.4	27.9	51.2	23.3	50.0	61.6	8.1	2.3
	40歳代	122	33.6	25.4	45.1	27.9	44.3	63.1	7.4	4.9
	50歳代	172	34.3	12.8	35.5	23.8	47.1	55.2	3.5	5.2
	60歳代	156	44.9	14.7	38.5	24.4	46.2	61.5	1.9	4.5
	70歳以上	149	36.2	13.4	43.0	36.9	47.0	52.3	2.0	6.7
未既婚別	結婚している	490	36.1	14.5	44.1	28.8	46.7	58.0	4.9	5.1
	離別・死別	100	38.0	20.0	40.0	29.0	54.0	59.0	3.0	3.0
	未婚	149	39.6	26.8	33.6	15.4	36.9	63.8	2.7	4.0

4. 家庭内での役割分担

問4 結婚している人（未婚だがパートナーと暮らしている人を含む）へお尋ねします。

あなたの家庭では、家事等の分担をどうしていますか。（○は1つずつ）

▶家事や子育ての役割は「ほとんど妻」

結婚している人（未婚だがパートナーと暮らしている人を含む）に対して、家庭内での役割分担について質問したところ、すべての項目において「ほとんど妻」、または「どちらかと言えば妻」の割合が最も高い。（「高齢者の世話・介護」については、「わからない又は該当なし」の割合が最も高いが、夫婦の役割の比較では妻の割合の方が高い。）

特に、「食事のしたく」、「洗濯」は、「ほとんど妻」の割合が5割～6割となっている。

男女別にみると、すべての項目で「夫と妻が両方同じ程度」の割合は、男性が女性より高くなっている。特に「子どもの教育」における「夫と妻が両方同じ程度」の割合は、全体では22.8%と、その他の項目と比較して高いが、男女別にみると、女性が男性より8.7ポイント低く、夫が「両方同じ程度」分担していると思っていても、妻はそう思っていないなどの、男女間で意識に違いがあることがうかがえる。

※男性が「ほとんど自分」と回答したものを「ほとんど夫」に、女性が「ほとんど自分」と回答したものを「ほとんど妻」に置き換えて集計しています。

（「どちらかといえば自分」も同様）

図2-4 家庭内での役割分担

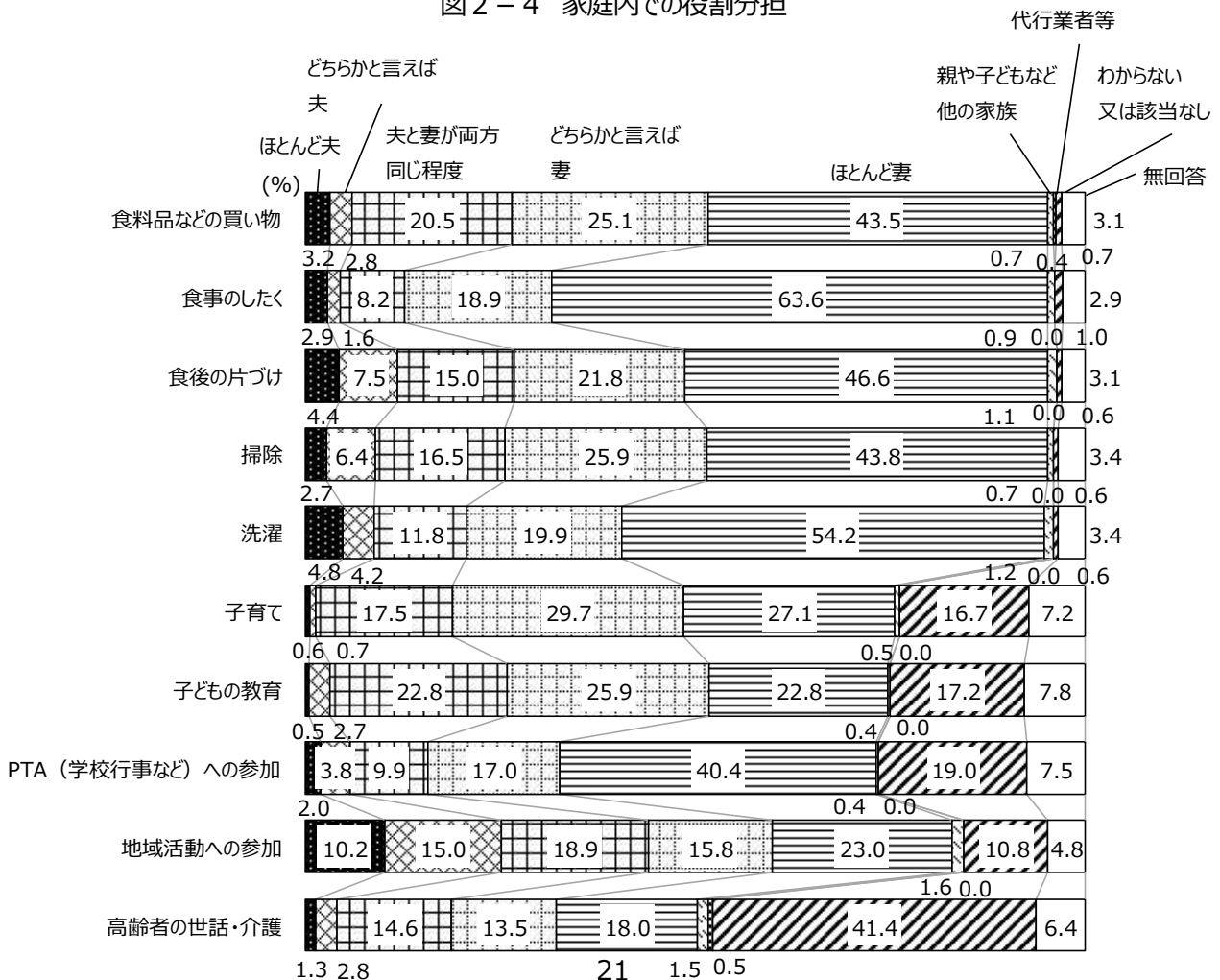


表2-4 家庭内での役割分担

家事等の内容	標本数	ほとんど夫	どちらかと言えば夫	夫と妻が 両方同じ程度	どちらかと言えば妻	ほとんど妻	親や子どもなど 他の家族	代行業者等	わからない 又は該当なし	無回答	
		人	%	%	%	%	%	%	%	%	
食料品などの買い物	全体	816	3.2	2.8	20.5	25.1	43.5	0.7	0.4	0.7	3.1
	男性	361	3.9	3.3	23.0	25.5	39.9	0.8	0.0	1.1	2.5
	女性	452	2.7	2.4	18.6	25.0	46.7	0.7	0.7	0.4	2.9
食事のしたく	全体	816	2.9	1.6	8.2	18.9	63.6	0.9	0.0	1.0	2.9
	男性	361	4.4	1.9	9.7	20.5	59.6	0.8	0.0	0.8	2.2
	女性	452	1.8	1.3	7.1	17.7	67.3	0.9	0.0	1.1	2.9
食後の片づけ	全体	816	4.4	7.5	15.0	21.8	46.6	1.1	0.0	0.6	3.1
	男性	361	5.5	11.1	18.6	21.9	39.1	0.8	0.0	1.1	1.9
	女性	452	3.5	4.6	12.2	21.9	52.9	1.3	0.0	0.2	3.3
掃除	全体	816	2.7	6.4	16.5	25.9	43.8	0.7	0.0	0.6	3.4
	男性	361	3.6	7.2	20.5	28.5	36.6	0.8	0.0	0.8	1.9
	女性	452	2.0	5.8	13.5	23.9	49.8	0.7	0.0	0.4	4.0
洗濯	全体	816	4.8	4.2	11.8	19.9	54.2	1.2	0.0	0.6	3.4
	男性	361	6.4	5.0	14.1	19.9	49.3	1.9	0.0	0.8	2.5
	女性	452	3.5	3.5	10.0	19.9	58.4	0.7	0.0	0.4	3.5
子育て	全体	816	0.6	0.7	17.5	29.7	27.1	0.5	0.0	16.7	7.2
	男性	361	0.8	0.8	20.8	27.7	23.3	0.3	0.0	19.9	6.4
	女性	452	0.4	0.7	15.0	31.4	30.3	0.7	0.0	14.2	7.3
子どもの教育	全体	816	0.5	2.7	22.8	25.9	22.8	0.4	0.0	17.2	7.8
	男性	361	0.8	3.6	27.7	23.5	17.7	0.3	0.0	19.7	6.6
	女性	452	0.2	2.0	19.0	27.9	27.0	0.4	0.0	15.3	8.2
PTA（学校行事など）への参加	全体	816	2.0	3.8	9.9	17.0	40.4	0.4	0.0	19.0	7.5
	男性	361	3.0	5.8	13.0	18.6	31.6	0.3	0.0	21.6	6.1
	女性	452	1.1	2.2	7.5	15.9	47.8	0.4	0.0	17.0	8.0
地域活動への参加	全体	816	10.2	15.0	18.9	15.8	23.0	1.6	0.0	10.8	4.8
	男性	361	13.9	19.1	21.1	15.5	16.6	1.1	0.0	9.4	3.3
	女性	452	7.3	11.7	17.3	16.2	28.3	2.0	0.0	11.9	5.3
高齢者の世話・介護	全体	816	1.3	2.8	14.6	13.5	18.0	1.5	0.5	41.4	6.4
	男性	361	1.4	3.6	15.5	11.9	15.2	2.2	0.6	43.2	6.4
	女性	452	1.3	2.2	13.9	14.8	20.4	0.9	0.4	39.8	6.2

5. 役割分担の決定方法

問4-1 問4で「ほとんど自分」または「どちらかと言えば自分」と答えた方にお尋ねします。

問4であなたが行っている家事等の分担についてお尋ねします。その分担はどのように決めましたか。最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

▶家事等の分担について「自分がやるのが当然と思われているから」の割合が最も高く28.0%

家事等の分担について「ほとんど自分」、「どちらかと言えば自分」と回答した人に対して、その分担がどのように決定したかを質問したところ、「自分がやるのが当然と思われているから」の割合が28.0%と最も高く、次いで「自分でやりたい(できる)から」が25.6%、「家族がしない(できない)から」が20.7%となっている。

男女別にみると、女性は「自分がやるのが当然と思われているから」は35.1%と、他の項目と比較して最も割合が高く、男性の11.2%と比較して23.9ポイント高い。一方で、男性では「自分でやりたい(できる)から」が35.8%と他の項目と比較して最も割合が高く、女性の21.2%と比較して14.6ポイント高い。

年代別にみると、「自分でやりたい(できる)から」は年代が低いほど割合が高く、20歳代が41.7%と最も高い。

一方で、「自分がやるのが当然と思われているから」では年代が高いほど割合が高く、70歳以上の36.7%が最も高い。

図2-5 役割分担の決定方法

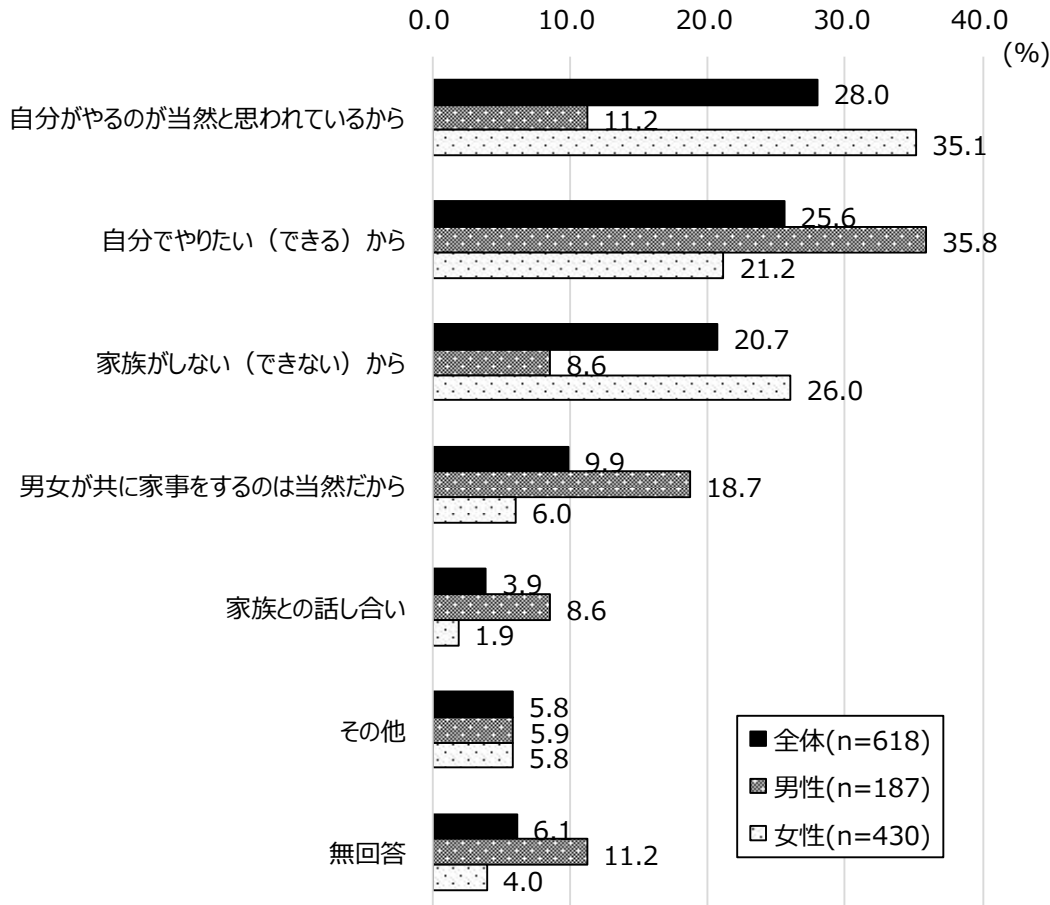


表2-5 役割分担の決定方法

標本数		自分でやりたい(できる)から	家族がしない(できない)から	自分がやるのが当然と思われているから	男女が共に家事をするのは当然だから	家族との話し合い	その他	無回答	
		人	%	%	%	%	%	%	
全体		618	25.6	20.7	28.0	9.9	3.9	5.8	6.1
男女別	男性	187	35.8	8.6	11.2	18.7	8.6	5.9	11.2
	女性	430	21.2	26.0	35.1	6.0	1.9	5.8	4.0
年代別	10歳代	0	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	12	41.7	33.3	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0
	30歳代	60	30.0	21.7	15.0	15.0	8.3	5.0	5.0
	40歳代	121	28.1	19.8	19.0	13.2	5.0	8.3	6.6
	50歳代	137	27.0	22.6	31.4	7.3	2.9	6.6	2.2
	60歳代	137	23.4	21.9	31.4	8.8	2.9	2.9	8.8
	70歳以上	150	21.3	17.3	36.7	7.3	3.3	6.0	8.0

6. 現在の役割分担の満足度

問4-2 問4で「ほとんど自分」または「どちらかと言えば自分」と答えた方にお尋ねします。

現在の分担を全体的にみて、あなたは満足していますか。(○は1つ)

▶家事等の分担について全体的に「満足」、「どちらかと言えば満足」の合計は48.4%

家事等の分担について「ほとんど自分」、「どちらかと言えば自分」と回答した人に対して、現在の分担を全体的にみて満足しているか質問したところ、「満足」の割合は13.8%、「どちらかと言えば満足」の割合は34.6%となり、合計すると48.4%である。

男女別にみると、「満足」は男性が23.0%、女性が9.8%、「どちらかと言えば満足」は男性が44.9%、女性が30.2%、「不満」は女性が11.4%、男性が2.1%、「どちらかと言えば不満」は女性が18.1%、男性が15.0%となっており、全体的な満足度は男性が女性より高いことがうかがえる。

年代別にみると、「満足」の割合は30歳代が18.3%と最も高く、50歳代は10.2%で最も低い。また、「どちらかと言えば満足」の割合は20歳代が58.3%で最も高く、60歳代が29.9%と最も低い。

図2-6 現在の役割分担の満足度

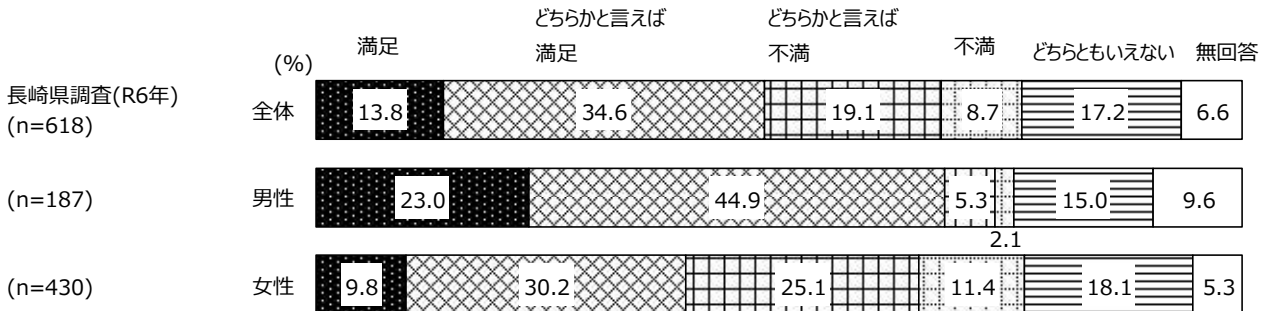


表2-6 現在の役割分担の満足度

標本数		満足	どちらかと言えば満足	どちらかと言えば不満	不満	どちらともいえない	無回答
人		%	%	%	%	%	%
全体	618	13.8	34.6	19.1	8.7	17.2	6.6
男性	187	23.0	44.9	5.3	2.1	15.0	9.6
女性	430	9.8	30.2	25.1	11.4	18.1	5.3
年代別	10歳代	0	-	-	-	-	-
	20歳代	12	16.7	58.3	25.0	0.0	0.0
	30歳代	60	18.3	36.7	15.0	8.3	15.0
	40歳代	121	13.2	35.5	16.5	13.2	14.9
	50歳代	137	10.2	31.4	25.5	12.4	16.8
	60歳代	137	16.1	29.9	16.1	10.2	18.2
	70歳以上	150	13.3	38.0	19.3	1.3	20.7

7. 家庭内での意思決定

問5 結婚している人（未婚だがパートナーと暮らしている人を含む）へお尋ねします。
 あなたの家庭では家計費の管理などを最終的に決定しているのはどなたですか。（○は1つずつ）

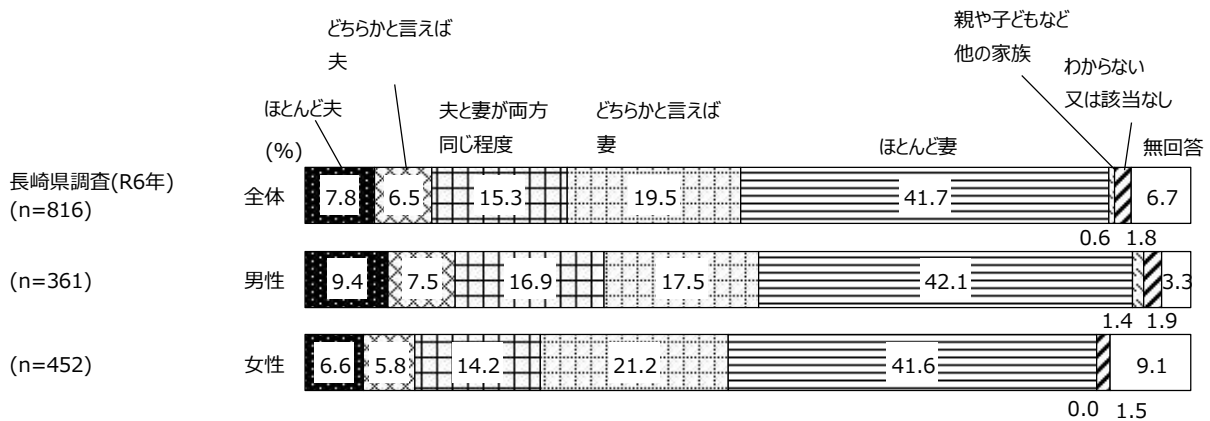
▶家計費の管理は「ほとんど妻」が行う

結婚している人（未婚だがパートナーと暮らしている人を含む）に対して、家庭内の最終的な意思決定について質問したところ、「家計費の管理」、「子どもの教育方針や進路」、「介護問題」の割合は「ほとんど妻」が「ほとんど夫」より高くなっている。特に、「家計費の管理」においては「ほとんど妻」の割合が最も高い。

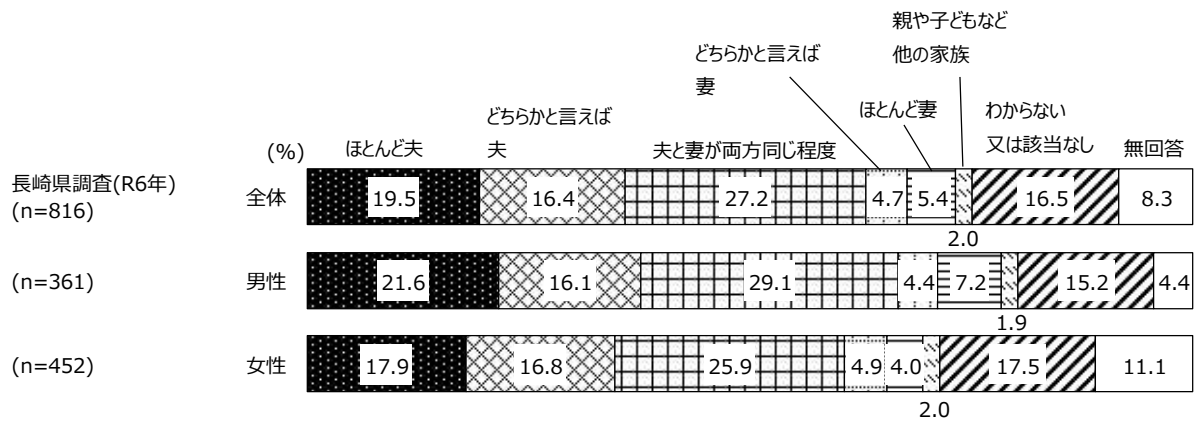
性別にみると、すべての項目において「夫と妻が両方同じ程度」の割合は、男性が女性より高く、家庭の最終的な意思決定においても、男女の間で役割分担の意識に違いがあることがうかがえる。

図2-7 家庭内での意思決定

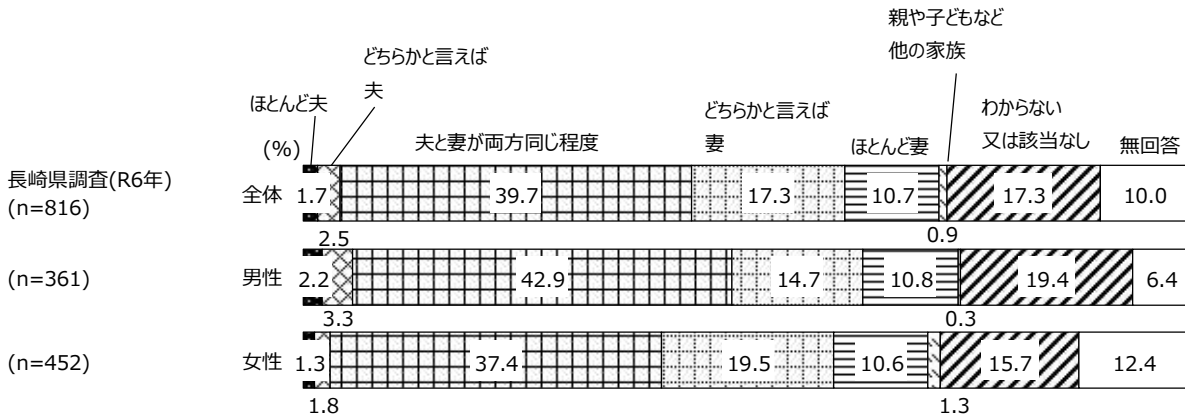
(1) 家計費の管理



(2) 土地、家屋の購入



(3) 子どもの教育方針や進路



(4) 介護問題

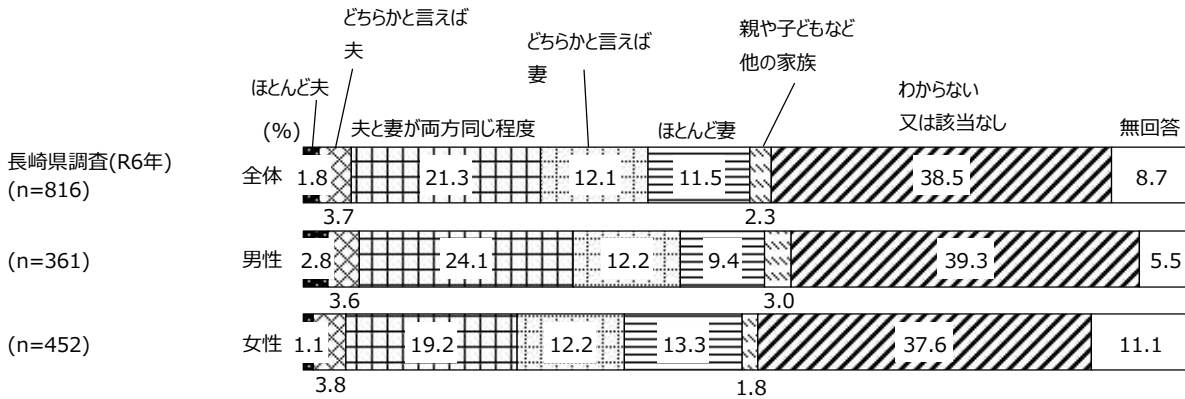


表 2-7 家庭内での意思決定

家事等の内容	標本数	ほとんど夫	どちらかと言えば夫	夫と妻が両方同じ程度	どちらかと言えば妻	ほとんど妻	親や子どもなど他の家族	わからない又は該当なし	無回答
		%	%	%	%	%	%	%	%
家計費の管理	全体 816	7.8	6.5	15.3	19.5	41.7	0.6	1.8	6.7
	男性 361	9.4	7.5	16.9	17.5	42.1	1.4	1.9	3.3
	女性 452	6.6	5.8	14.2	21.2	41.6	0.0	1.5	9.1
土地、家屋の購入	全体 816	19.5	16.4	27.2	4.7	5.4	2.0	16.5	8.3
	男性 361	21.6	16.1	29.1	4.4	7.2	1.9	15.2	4.4
	女性 452	17.9	16.8	25.9	4.9	4.0	2.0	17.5	11.1
子どもの教育方針や進路	全体 816	1.7	2.5	39.7	17.3	10.7	0.9	17.3	10.0
	男性 361	2.2	3.3	42.9	14.7	10.8	0.3	19.4	6.4
	女性 452	1.3	1.8	37.4	19.5	10.6	1.3	15.7	12.4
介護問題	全体 816	1.8	3.7	21.3	12.1	11.5	2.3	38.5	8.7
	男性 361	2.8	3.6	24.1	12.2	9.4	3.0	39.3	5.5
	女性 452	1.1	3.8	19.2	12.2	13.3	1.8	37.6	11.1

8. 男性が家事、子育て、介護、地域活動を積極的に行っていくために必要なこと

問6 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動を積極的に行っていくためには、
どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

▶「家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをはかる」ことが必要だと思う割合が最も高く51.3%

男性が家事、子育て、介護、地域活動を積極的に行っていくために、必要だと思うことについて、「家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをはかる」が51.3%と最も高い。次いで「職場の中で、理解し支援する」が33.5%、「男性自身の抵抗感をなくす」が33.4%と大差ない割合である。長崎県調査（R1年）の「家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをはかる」の割合は50.1%であり、長崎県調査（R6年）では1.2ポイント増加している。依然として家族間でのコミュニケーションが重要であるとの考えは高い傾向にあることがうかがえる。

男女別にみると、「家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをはかる」の割合は、男性が51.8%、女性が51.1%となり、ともに5割前半となっている。「男性自身の抵抗感をなくす」の割合は女性が男性よりやや高い一方で、「女性の抵抗感をなくす」の割合は男性が女性よりやや高い結果となっている。

年代別にみると、「家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをはかる」の割合はすべての年代で4割を超えており、なかでも20歳代の59.0%が最も高い。「多様な働き方を普及させ、仕事以外の時間を多く持てるようにする」の割合は20歳代の50.0%、30歳代の41.1%、40歳代の37.8%が比較的高い割合となっており、年代が低いほど仕事以外の時間を持つことが重要と考える比率が高い傾向にある。

図2-8 男性が家事、子育て、介護、地域活動を積極的に行っていくために必要なこと

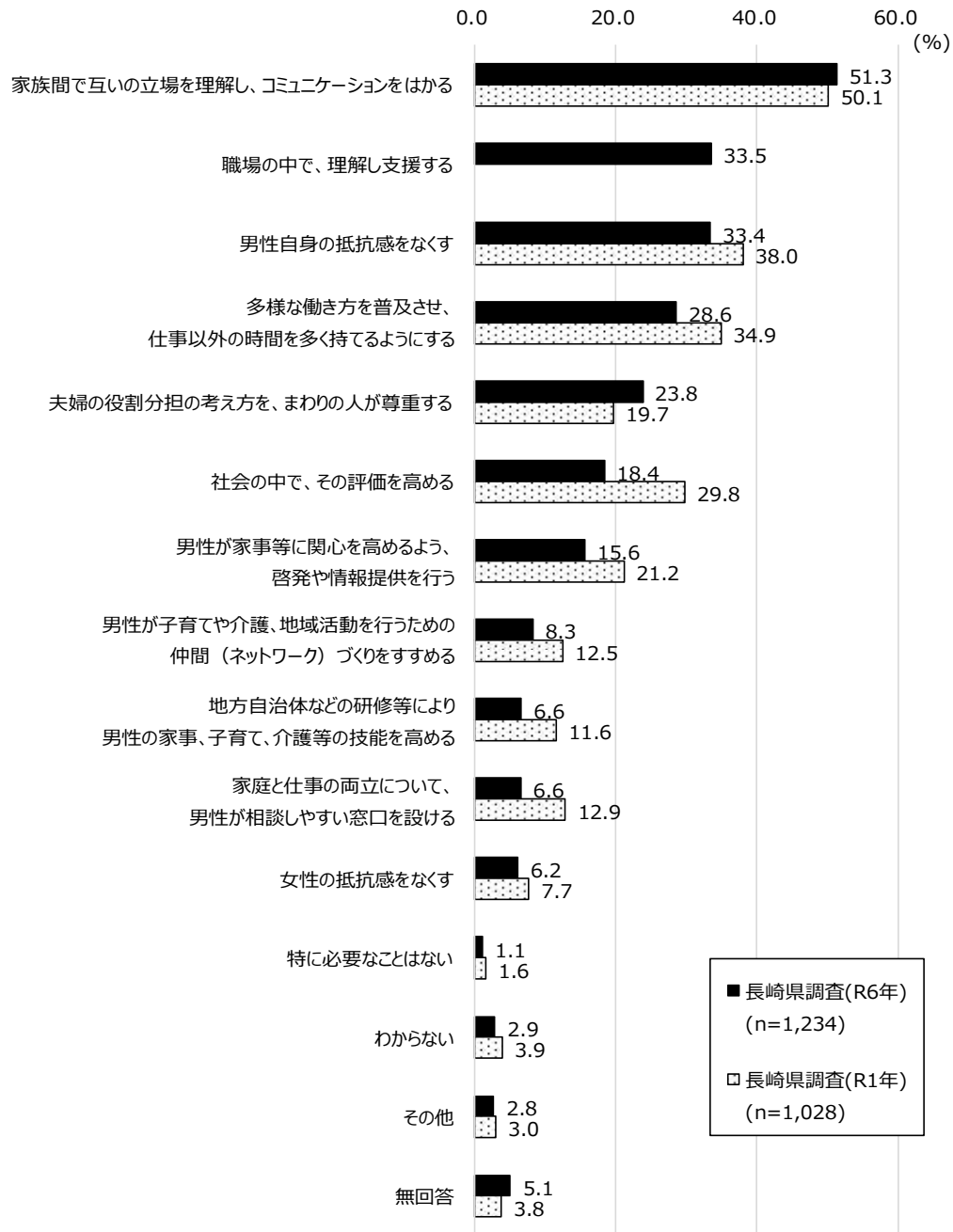


表2-8 男性が家事、子育て、介護、地域活動を積極的に行っていくために必要なこと

標本数	男性自身の抵抗感をなくす		女性の抵抗感をなくす		家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをはかる		夫婦の役割分担の考え方を、まわりの人が尊重する		社会の中で、その評価を高める		多様な働き方を普及させ、仕事以外の時間を多く持てるようにする		男性が家事等に関心を高めるよう、啓発や情報提供を行う		男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる		地方自治体などの研修等により男性の家事、子育て、介護等の技能を高める		家庭と仕事の両立について、男性が相談しやすい窓口を設ける		職場の中で、理解し支援する		特に必要なことはない		わからない		その他		無回答	
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
全体	1,234	33.4	6.2	51.3	23.8	18.4	28.6	15.6	6.6	8.3	6.6	33.5	1.1	2.9	2.8	5.1														
男女別																														
男性	496	30.2	6.5	51.8	21.2	19.2	27.4	16.1	6.3	7.3	6.9	29.2	1.8	3.4	3.0	5.4														
女性	724	35.2	5.8	51.1	25.8	18.0	29.6	15.2	7.0	9.0	6.5	36.5	0.7	2.5	2.2	5.0														
年代別																														
10歳代	7	42.9	0.0	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0														
20歳代	78	26.9	5.1	59.0	26.9	16.7	50.0	7.7	5.1	7.7	9.0	47.4	0.0	5.1	1.3	0.0														
30歳代	129	27.1	5.4	41.1	27.1	22.5	41.1	7.8	4.7	5.4	2.3	46.5	1.6	4.7	4.7	3.9														
40歳代	196	29.6	4.6	45.9	23.0	24.0	37.8	16.3	7.7	7.1	5.1	34.2	1.5	2.0	4.6	2.6														
50歳代	245	34.7	5.3	49.0	32.2	21.6	27.8	16.3	4.5	7.3	6.1	38.0	0.8	2.4	1.6	4.9														
60歳代	235	38.3	8.9	53.6	19.6	18.3	20.4	18.3	3.4	9.8	6.4	31.1	0.4	0.4	2.6	8.1														
70歳以上	334	34.7	6.0	57.2	18.9	12.6	21.0	18.3	11.4	9.6	9.3	23.1	1.5	4.2	1.8	6.3														